

静岡県漁業協同組合連合会
1083 静岡市追手町 9-18
16.3.5 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 第12回県協同組合間提携シンポジウム開催される

このシンポジウムは、「生産」と「消費者」の組織体としての協同組合の果たすべき課題と役割を考えるため、毎年開催されているもので、3月3日静岡市において「食の安全・安心と地産地消の協同組合間提携」をテーマに関係団体から約100名が参加し開催されました。

シンポジウムでは主催者を代表して県協同組合間提携推進協議会長である山田勇次郎(県農協中央会長)が挨拶をし、続いて来賓の県民生活室松浦室長から祝辞がありました。

次に田代洋一氏(横浜国立大学大学院国際社会科学部教授)による「食の安全・安心と協同組合の役割」をテーマに記念講演が行われました。

また、午後からは問題提起として「私たちがめざす協同組合間提携事業」と題して県協同組合間提携推進協議会幹事長杉山克明氏(JA中央会)による意見表明が行われ、続いて協議会に参加している農業、漁業、林業、生協からそれぞれ報告があり、漁業からは丸榛吉田うなぎ漁協加工課長森田修司氏による「安心・安全な鰻づくりへの取り組み」と題して報告が行われました。

2. 第9回全国青年・女性漁業者交流大会開催

去る3月3日~4日の両日、東京・虎ノ門パストラルにおいて、第9回全国青年・女性漁業者交流大会が全国の青年・女性漁業者等約600名の参加のもと盛大に開催されました。

当日は全国から55グループが参加し、漁業技術部門 増・養殖部門 漁業経営部門 環境保全部門 地域活動部門 の5分科会に分かれ、浜の活性化を目指した日頃の研究成果や実践活動について発表しました。

本県からは、稲取漁協青壮年部(発表者:石黒広幸氏)が第1分科会の漁業技術部門において「キンメダイよどこへ行く!」と題して、また、浜名漁協女性部(発表者:斉藤和子氏)が第4分科会の環境保全部門において「アサリの天敵を味方に」と題して、夫々日頃の成果を堂々と発表しました。その結果、稲取漁協青壮年部、浜名漁協女性部が夫々の部門で全漁連会長賞を受賞しました。

3. PBによる水産動植物採捕意識調査を発表

水産庁ではこのほど、プレジャーボート(以下PB)による水産動植物の採捕に関する意識調査結果を発表しました。

この調査はPBを使用した水産動植物の採捕に起因するトラブルが全国的に発生しているため、初めて全国的な調査を行いました。

PB関係者の間では、広域な問題であるとの認識が低いため、漁業関係者からの働き掛けや、都道府県による漁業調整の措置、特にPBを含む水産動植物を採捕する者全体にかかる規制について、論議が進まない事例が見受けられることなどから、1月上旬から下旬

にかけて、漁業者3千人(回答は1,604人)を対象にPBによる採捕活動に対する意向・意識調査を行ったもので、調査結果が次のとおりとなりました。

PBによる採捕活動者をどう考えるかは、「迷惑」が43.1%、「どちらかといえば迷惑」が43.3%となっており、両方を合わせた「迷惑」が9割を占めています。一方、「歓迎する」は2.4%、「どちらかといえば歓迎する」は2.9%となりました。

PBによる採捕活動者のマナーをどう考えるかは、「悪い」が35.2%、「どちらかといえば悪い」が41.1%となっており、両方を合わせた「悪い」が8割を占めています。一方、「良い」は1.1%、「どちらかといえば良い」は1.4%、また、「普通」は14.0%となっています。また、マナーが悪いと考える理由では、密漁や乱獲による資源への悪影響 まき餌やゴミによる漁場汚染 漁港区域等への無断駐車やゴミの投棄 漁場への立ち入りによる操業の支障 などとなっています。

PBによる採捕活動の規制をどう考えるかは、「規制を強化すべき」が74.9%を占めています。

都道府県の漁業調整規則や海区漁業調整委員会指示により、PBによる採捕活動への規制が可能なことを知っているかは、「知っている」が29.2%、「知らない」が68.1%となっています。

4. こども・海とサカナのフォーラムを開催

ウーマンズフォーラム魚では、去る2月22日都内で海彦クラブ2003「こども・海とサカナフォーラム」を開催しました。

去る1月10日に「こどもと魚体験ツアー」(本紙1月23日付 1077既報)で、稲取へ行き「こども記者」として、稲取のキンメ漁業や漁師の生活などを取材した児童20人が海への思いをそれぞれに発表しました。

白石代表から、今日一日、海と魚のことをしっかり勉強してくださいと、挨拶をした後、インストラクターで千葉県立安房博物館客員研究員のさかなクンより、記念講演が行われ、紙芝居などを使って魚の生態を解説し、子供たちからのユニークな質問などに熱心に答えました。

こども記者報告会は4つの新聞社に分かれ、「キンメダイと稲取の海」「漁師さん」「稲取のキンメ漁」「流通」について、クイズ形式や芝居風、スライドを使うなど工夫を凝らし、稲取での体験を報告しました。また、こども記者一人一人が体験学習で感じた海への思いを絵に描き、「未来への宣言」として発表しました。

5. 諸会議日程(3月9日(火)~3月22日(月))

- 既報分省略 -

3月10日(木) 県遊漁船業協会 = 漁場利用検討協議会・御前崎沖部会 (県水産会館)

3月15日(月) 県密漁防止対策協議会 = 密漁防止取締訓練 (南伊豆町手石漁港)

3月16日(火) 県漁業振興基金 = 理事会・評議員会 (県水産会館)

〃 県漁連 = 海の子フェスタ実行委員会・幹事会 (〃)

〃 県漁船海難救済基金協会 = 理事会・評議員会 (〃)

3月17日(水) 県漁業振興基金 = 地区代表漁業公害担当国会議 (クーポール会館)

3月22日(月) 県漁連 = 養殖生産物安全対策検討会 (県水産会館)